

○市川 敦¹¹アステラス製薬

創薬研究とは、多種多様な専門家の英知と技術を結集し、最先端の科学を「くすり」という形に変えていく研究である。創薬研究を担当する研究者は、いくつものステップと度重なる困難を乗り越え、極めて低い成功確率に挑む。研究を進めるにしろ止めるにしろ、担当者には強い意志が求められる。判断のタイミングを逃さないことも重要である。課題を的確に見極め迅速な対応をはかる必要があり、そのためにはコラボレーションの推進・拡充が必須となる。何より、個の力と組織の力をバランス良く組み合わせることが重要となる。これらは、創薬研究の生産性を高めるために、研究者個々が常に意識しなければならない要素である。

医薬品を含む医療ニーズが大きく変化している中で成功確率を高めるためには、多様な価値観を共有・受容し、それを成果に結び付けていかねばならない。「くすり」という価値を創造するために必要とされる人材像およびその育成フローを描く上で、今回のシンポジウムを、まさに多様な価値観を共有する機会としたい。